

地域住民の健康を守るために医療機関が行う地域活動体験プログラム

2022.11.5～2022.11.6実施済

プログラム概要

- ・ 広島県福山市にある脳神経センター大田記念病院および関連施設では、医療・介護制度の枠にとらわれず、地域住民全体の健康を守るための地域活動を展開しています。
- ・ 本プログラムでは、この地域活動の体験を通して、医療機関経営者や専門職の社会的役割を学ぶことを目的としました。



広島県福山市：脳神経センター大田記念病院

広島県福山市



活動の様子



高架下で実施している一般市民向けの「暮らしの保健室」に参加



「100歳体操」実際にやってみると結構疲れます



「暮らしの保健室」の合間に、ちょっと一息つきました



大田記念病院の医師・看護師とこれからの医療について、それぞれの立場から意見交換



地域住民や近隣病院・施設の専門職など
多種多様なメンバーでの勉強会



参加メンバーで記念撮影

活動の様子



住民の皆さんの健康意識について真剣にお話を伺ってます



一緒にお茶を飲みながら、
普段の生活や健康に関するお話しなど、伺いました



自治会が主催するカフェ（住民同士の交流カフェ）に参加



活動拠点になっている五本松の家で
参加メンバー、スタッフの皆さんと一緒に記念撮影

番外編



靱の浦のシンボル 常夜燈



海沿いの道からの風景



仙酔島

福山市中心部から、ちょっと足をのばすと、有名な観光地「靱の浦（とものうら）」があります。靱の浦は映画やドラマのロケ地としても有名で、「崖の上のポニョ」の舞台になったことでも知られています。

体験活動プログラム終了後、帰京するわずかな時間でも十分に楽しめる観光地でした。

参加した皆さんからの感想

どの行程も楽しくあっという間の2日間でした。プログラム参加以前は、病院や施設の職員が医療機関外で活動を行うことは心理的にも金銭的にも大きな負担であり、大変な部分も多いのではないかと予想していましたが、実際に見学してみると、皆さんが楽しく活動していらっしや、地域の方々とコミュニケーションや交流を大切にされている様子が何より印象的でした。

地域の方々と顔を合わせて対面し、何気ない会話を始める。その中で医療や介護、ACPなどに関わる話をするきっかけを作っていく。病院という非日常の空間ではなく、キッチンカーや公民館、スナックのような誰でも気軽に参加できる場だからこそ行えることなのかなと感じました。



大学の中において、「専門家とは何か?」「専門家はどのように市民社会とコミュニケーションを取っていくべきか?」などと議論していると、いつしか専門家も地域コミュニティの一員であるという意識が希薄になってしまう。そして、「専門家」が何か確固たる専門性を持った、一般市民と一線を画す人物のように思えてくる。しかし、本当は、専門職と言われる人々も、専門家である前に地域住民の一人であり、地域の中で共に食事し、ケアし合う関係性の中にあるべきだったのだ。福山を訪れて、専門家も、特定の分野において専門知識と問題解決能力を持っている「個人」として、地域に居るという在り方ができることに気づいた。

公民館でのカフェでは、民生委員の方が高齢者の見守りツールの紹介をして、実際訪れていた高齢者の方々が自分で選んで利用しているというお話を聞くことができました。家族が心配して高齢者に持たせる、というわけではなく、ご自身で選択してそのツールを活用するというエピソードは新鮮だったが、セルフケアの一種だと思い、それが自然にうながされているこの情報共有の場所にはとても意味があると感じた。私は、子どもから高齢者までがセルフケア・お互いのケアを無理なくおこなえるようになるにはどうしたらいいか、そのために専門職はどのような役割を果たせるのか、ということに関心があり、今回のプログラムに参加した。



病院・医療・看護の枠組みにとどまらない活動のヒントがたくさん見られた二日間だったと思う。

次回は皆さんもどうぞご参加ください。お待ちしております。